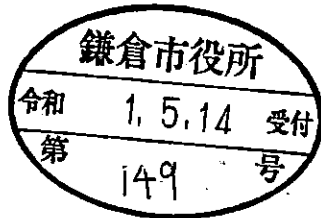


相互提案協働事業 報告書

2019年 4月 26日

(あて先) 鎌倉市長



住所 [REDACTED]
 郵便番号 [REDACTED]
 団体名 かまくらっぶ
 代表者氏名 中井 美緒

平成 30 年度事業報告会に先立ち、協働事業の実施状況・実施結果について、下記のとおり報告します。

事業名	自治・町内会活動支援のためのハンドブック作成事業
事業概要	<p>【目的】 自治・町内会とは、一定の地域で生活する住民等によって組織される親睦、共通の利益の促進、地域自治のための任意団体・地縁団体であり、鎌倉市内には現在約 182 団体ある。本市の自治・町内会加入率は 80%以上と他市と比較しても高い比率である。一方で、活動会員の限定・高齢化・運営のノウハウが検証されにくい・加入メリットや必要性を伝える手段がわからないという課題がある。</p> <p>このような課題を解決するため、自治・町内会活動を活性化させ、持続的な運営を支援するためのハンドブックを作成し、自治・町内会への加入率や活動参加者の増加につなげることを目的とする。</p> <p>【目標 (数値目標)】 ハンドブックの作成 200 部以上を想定 (ホームページでの公開有)</p> <p>【内容】 ①自治・町内会の役員に向けて - 役員交代等にも柔軟に対応できるようなマニュアルを目指す。 - 掲載例：自治・町内会の運営に関する基礎的な知識、市の制度・補助金情報、法人化等の手続き、先進的な取り組み等の紹介、自治・町内会活動 Q&A 集、加入促進のためのノウハウ等。</p> <p>自治・町内会長に向けてアンケートやヒアリング調査を実施し、ハンドブックに必要な情報やその地域で力を入れている活動を把握し、ハンドブックに反映させる。また、他市の自治・町内会に対する支援を調査し、先進事例の紹介等</p>

	<p>を掲載する。</p> <p>②未加入又は加入しているが活動に参加していない市民に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> － 自治・町内会活動が身近で魅力的なものであることを伝える。 － 掲載例：自治・町内会の役割や必要性、自治・町内会活動内容と魅力等の紹介等。協働事業者が行う地域イベント（各地区の赤ちゃん広場、福祉センター、各自治・町内会館等）で、参加者と対話しながら自治・町内会のイメージや、ハンドブックに掲載すべき内容をヒアリングし、ハンドブックに反映させる。 <p>※ 掲載例は、現在想定している内容である。事業の目的を達成するために協働事業者と協議することや調査をしていく中で、掲載内容を決定する。</p>
市担当課	地域のつながり課
事業実施期間 (継続中の事業については、継続に○をつける)	<p style="text-align: center;">継続</p> <p>開始 平成 30 年 4 月 1 日 ～ 終了 平成 31 年 3 月 31 日</p>
協働の形態	<p>《市》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自治・町内会や先進的な取組みを行う他自治体への取材協力依頼 ● 市が保有する自治・町内会活動に関するデータの提供 ● 自治・町内会活動に役立つ支援策等の情報提供 ● 作成したハンドブックの広報、配布 <p>《市民活動団体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自治・町内会や先進的な取組みを行う他自治体への取材 ● ハンドブックの編集、印刷製本 ● 市民にわかりやすい掲載内容やデザインのアイディア
事業費	285,000 円

<p>事業目的の達成 (継続中の事業については、現時点で判断する)</p>	<p><達成できた点> ハンドブック作成完了 (A4/両面カラー/200部印刷・納品済み)</p>
	<p><達成できなかった点> ホームページにてハンドブック (PDF) を公開 (現在市が準備中)</p>
<p>成果・効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 他市の事例や自治・町内会の情報収集だけでなく、直接ヒアリングを行うことで、以下の効果が得られ、ハンドブックに反映をすることができた。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に自治・町内会のヒアリングを行ったことで、アンケートでは拾いきれなかった意見を拾うことができ、市・団体が自治・町内会をより理解でき、学ぶことが出来た。 2. ヒアリングを何度も行ったことで、他自治・町内会の情報を交換することができたため、自治・町内会同士を繋げるきっかけ作りができた。 3. 他市、自治・町内会との意見交換会を積極的に行ったことで、他市との関係作りや、多くの自治・町内会の意見を反映できた。(冊子を自治会・町内会の人たちと創り上げることができた。) ● 定例会の進め方を工夫したことで、子育て世代でも協働を無理なく行うことができ、お互いを理解し無理なく進めることが出来た。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前調査の段階で、掲載参考資料を調査し、付箋を使用しての意見交換など、単なる話し合いではなく、お互いの意見を出しやすい環境づくりができた。(協働を進める上で理解を深めるきっかけになった。) また、後半、まめに連絡をすることでお互い出来ること、できないことを明確にし、確認し合えたのがよかった。一生懸命、最後まであきらめず市と一緒に校正を行ったことで、達成感を得られた。そのため、良いものを作り、しっかりやり切ったという感覚になれた。(現場担当者が一生懸命やってくれたことで、できたことだと思う。) 2. 団体の特徴でもある、打ち合わせにお子さんが同伴するということも、市は快く受け入れてくれ、時間帯や場所など、多くの協力をしてくれた。(団体として活動がとてもしやすかった。本当にありがたかった。) <p>《まとめ》</p> <p>他市の事例やハンドブックを参考にするだけでは、自治・町内会が本当に必要としている情報なのか(使えるものか)を判断することはできなかった。また、他市を訪問した際、データだけではなく、自治・町内会の意見を取り入れないと利用されないという意見をいただいた。そのため、自治・町内会を訪問し、現状の再確認・意見交換をすることで、アンケート調査では拾いきれなかった地域の現状を把握することができた。</p> <p>また、自治・町内会の組織作りや運営方法を学ぶことが出来たため、自治・町内会目線を理解し、汎用性の高いハンドブックを作成できた。</p>

<p>課題・問題点 (解決・改善の方法についても記入)</p>	<p>《課題・問題点》</p> <p>① 団体が行うデータ作成時の作業工数がとても多かった。(後半、委託かと勘違いしてしまう時期があった。) また、予算に見合う作業内容だったか正直不安になった。 ⇒協定締結前に工数や具体的な内容の確認をしっかりとする必要があった。</p> <p>② 担当者が協働開始後途中で変更になるなど、事業の内容や目的の確認をし直すことがあり、困惑することがあった。 議事録の振り返りができなかつたため、作業の行き違いが発生した。 ⇒提出期間の確認や、定期的な進捗確認が必要だった。</p> <p>③ 提出物を共有するのが定例会直前になることが多かつたため、定例会で確認しきれていなく、作業遅延の原因になってしまった。 ⇒定例会 2 日前など期間を設けるべきだった。</p> <p>④ 校正箇所を口頭だけでなく、データでもまとめていただけるとありがたかつた。また、納品データの事前確認不足のため、後半デザインのずれが発生し、データの修正が多く発生してしまった。 ⇒Word のバージョンや納品データの形式を最初に確認する必要があつた。</p> <p>⑤ 定例会で確認したことを、後日市から二重に確認され、定例会で修正したものを、また市から修正前に戻すという連絡が多くあつた。 ⇒校正履歴をきちんとまとめてなかつたのが原因と感じたため、改善の必要を感じた。</p> <p>⑥ 1 月、2 月と掲載内容の確認をお願いしていたが、入稿直前での校正連絡が多くあつた。正直、事前に確認されていたか不安になった。また、現場レベルでの確認はとれていたが、マネジメントを行っている方になかなか伝わっていなかつたのではと感じることがあつた。 入稿確認の段階で市から校正連絡が多く発生したため、入稿時期が遅れ、納品時期が予定より遅れた。 ⇒タスクスケジュール管理の重要性を感じた。</p> <p>《まとめ》</p> <p>宿題やタスクスケジュールの管理をしっかりとし、些細なことに関しても報連相を徹底することが重要と感じた。まめな情報のやり取りをすることで、意見のすれ違いを食い止められ、お互いの意見を理解でき、作業の分散化をすることができるため、作業遅延や品質の向上をすることができると思う。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>ハンドブックの利用、ハンドブックを利用した自治・町内会役員向け講習会や、意見交換会を実施し、改訂を行って汎用性を高め、自治・町内会活動が年齢関係なく活動できる場となっていってほしい。</p>

添付資料 なし

収支決算書

単位：円

科目	予算金額	決算金額	比較増減	備考
I 収入の部	285,000	285,000	0	
協働事業(京からの収入)				
収入合計 (A)	285,000	285,000	0	
II 支出の部				
●ハンドブック印刷費	99,000	108,635	▲9,635	ラクスル棚 A4/両面カラー/52ページ/ 200部(領収書発行料・データ チェックお急ぎ便込み)
●取材費(交通費含む)	135,000	136,000	▲1,000	4月～11月 対象：4名(1名あたり一 日1000円)
●編集費(交通費含む)	45,000	24,000	▽21,000	12月～3月 対象：4名(1名あたり一 日1000円)
●その他雑費	6,000	16,365	▲10,365	●印刷費 (A4/モノクロ10円×644 枚、カラー50円×78枚) ●会場使用費 (NECTON大船/打ち合わせ 2名1時間500円×2名、 大会議室利用3時間4000 円) ●銀行手数料(納品物の印 刷入金手数料 540円) ●通信費(速達費485円)
支出合計 (B)	285,000	285,000	0	
収支差額 (A) - (B)	0	0	0	

市民活動団体と鎌倉市による相互提案協働事業 評価シート

(30年度)

事業名 : 自治・町内会活動支援のためのハンドブック作成事業 担当課名 : 地域のつながり課

市民活動団体名 : かまくらっぶ

評価項目		役割担当		理由	
		市民活動 団体	行政担当 課		
1	事業着手前	事業の協定書作成に当たり十分な話し合いができたか	○	○	
2		事業の協定書作成に当たり対等な立場で話し合いができたか	○	○	
3		事業の協定書の内容は充分であったか	○	○	
4	事業実施過程	事業は当初の事業計画どおりに行われたか	○	△	校正に多くの時間を要したため、校了及び納品に遅れが生じた。
5		事業は対等な立場で進められたか	○	○	
6		事業は互いの特性や資源を活かしあいながら進められたか	△	○	市の担当者変更が相次ぎ、作業が停滞してしまうことがあった。
7		事業は課題認識、目的、プロセスを共有し協力して進められたか	○	○	
8		課題が出た時、話し合いの場が持て解決できたか	○	○	
9	事業実施結果	設定された目標（評価項目）は達成されたか	○	○	
10		予算の執行は予定通りであったか	○	○	
11		定められた役割分担は妥当であったか	△	△	団体への負担が多かった。
12		定められた役割分担は守られたか	△	△	担当者の変更もあり、作業分担の行き違いが生じることがあった。
13		市民サービスは向上したか	○	○	
14		市民と行政の協働事業は効果があったか	○	○	市民活動団体の視点を取り入れることにより利用者が使いやすい成果物ができた。
15	今後の事業展望	事業を実施した結果を踏まえ、将来的な視点も含めた総括 (相互協議のまとめ)	(まとめ) 自治会・町内会からの評価や意見をもとに、今後は、このハンドブックを改訂し汎用性を高めることや、ハンドブックを利用した自治会・町内会役員向けの講習会などの企画も検討している。		

各々の評価は 達成：○（10ポイント） まあまあ：△（5ポイント） 不達：×（1ポイント）

備考：理由欄は、別紙で提出しても結構です。

鎌倉市 地域のつながり課 地域のつながり担当
電話23-3000 内線 2311